



【第8章】

事業効果

第8章 事業効果

8-1 連続立体交差事業における効果

(1) 踏切除去による交通渋滞の解消

9箇所の踏切がなくなり、地域生活や緊急活動がスムーズに

・国道踏切	遮断時間 223 分 / 日	⇒ ゼロ
・鷹見踏切	遮断時間 226 分 / 日	⇒ ゼロ
・八幡町通り踏切	遮断時間 144 分 / 日	⇒ ゼロ
・日吉台踏切	遮断時間 270 分 / 日	⇒ ゼロ
・本町通り踏切	遮断時間 248 分 / 日	⇒ ゼロ
・四反田踏切	遮断時間 110 分 / 日	⇒ ゼロ
・川端通り踏切	遮断時間 116 分 / 日	⇒ ゼロ
・天神踏切	遮断時間 232 分 / 日	⇒ ゼロ
・大膳1丁目踏切	遮断時間 232 分 / 日	⇒ ゼロ



日吉台踏切（平成19年頃）



学 校

踏切が無くなったことにより、児童が線路内に立ち入るのではないかとといった心配や危険性が解消され、児童の生活環境面での安全性が向上しました。



警 察

踏切が無くなったことで、踏切事故や線路・踏切内への飛び込み事案の心配が無くなりました。以前は、遮断機が下りる寸前に軌道敷内に駆け込む方が多数散見され、踏切事故防止を念頭に勤務する必要がありましたが、その危険性が無くなり、他の事案対処に配慮する余裕が生まれました。



バス事業者

朝晩のラッシュ時は踏切があることによって最大5分程度遅れることもありましたが、踏切除却により定時性が向上しており、折尾地区全体でバスの運行がしやすくなった様に思います。



タクシー事業者

以前はピーク時の渋滞が激しく、踏切と信号が連続していたため、踏切待ちと合わせて信号待ちが多かったです。現在は、踏切が無くなり、交通の流れがスムーズになりました。



消 防

緊急走行時は、時間的なロスを避けるため、できるだけ踏切を回避したルートを選択します。折尾地区は踏切が多い地域でありましたが、踏切が除却されたことにより、「踏切を回避するためのルートを考えなくてよかった」ことが最も大きな効果であり、隊員の負担軽減にも繋がっています。

(2) 駅や駅前広場の整備による交通結節機能の向上

2か所に分かれていた駅舎が1か所に集約され、西口、東口、鷹見口の3か所に分散していた改札口も新駅舎の1か所に集約されました。これにより、駅構内における鉄道の乗り継ぎがスムーズになりました。

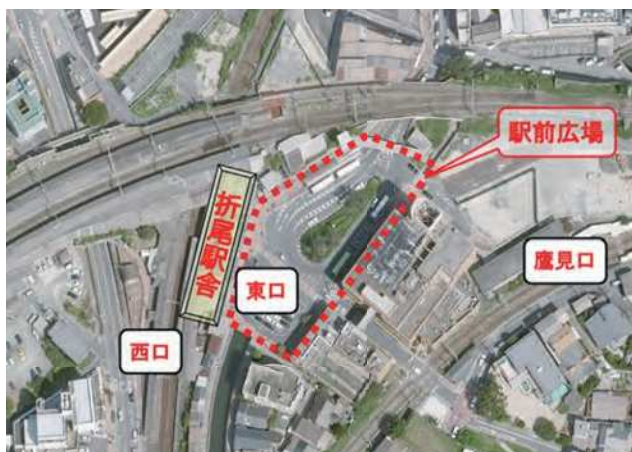
バリアフリー化の推進により、各のりばにエレベーターやエスカレーターが設置されたことにより、駅構内を移動しやすくなりました。

駅の南北に広く便利な駅前広場ができ、鉄道とバスの乗換えや自家用車等での送迎がスムーズになりました。また、高架下に新しい道路や通路ができ回遊性が向上しました。



視覚障害者

階段がすり減ってガタガタでしたが、きれいになって歩きやすくなりました。
利用しやすくなり、人に伝えやすくなりました。



旧折尾駅周辺



現在 折尾駅

(3) アンダーパスの平面道路化

見通しが悪く、大雨で冠水するなどの問題を抱えていたアンダーパスが、見通しの良い安全な道路になりました。



折尾中間線 アンダーパス

(4) 高架下の活用

鉄道高架化によって生まれた高架下のスペースでは、折尾まちづくり記念館や八幡図書館折尾分館が入る複合公共施設や、コンビニエンスストアなどの商業施設等としての活用が進んでいます。

施設利用者・イベントの数も徐々に増加しており、活力のあるまちが実現しています。



北九州市折尾まちづくり記念館・北九州市立八幡図書館折尾分館

8-2 関連事業における効果

(1) 街路事業における利用者の安全性・快適性の向上

連続立体交差事業に伴い、街路事業において歩道整備や駅周辺道路の4車線化を行いました。

歩道利用者の7割以上が、整備され快適に歩けるようになったと、高い満足度を得ることができました。



学 校

広い歩道が整備されたことで、特に雨の日など傘をさしての登下校時の安全性が向上しました。
校外学習など集団での移動が伴う時に、歩道が整備されたことで、教職員が引率する際に、使いやすい、歩きやすい、安全が確保されていることを実感します。



バス事業者

道路が4車線化され、踏切除却と合わせて定時性が向上しました。
また、道幅が広がったことにより、交通の流れがスムーズになった印象があり、接触危険性などの安全面も向上しています。



消 防

4車線化以前と比較して、一般車両が安全に道を譲りやすくなり、緊急走行が安全かつ迅速に行えるようになりました。



整備後 日吉台光明線

(2) 土地区画整理事業や民間開発プロジェクトにおける公示地価の上昇

連続立体交差事業に伴い、土地区画整理事業や民間開発プロジェクトを一体的に行うことで地価の上昇につながりました。

商業地、住宅地ともに、下降傾向があったものの、事業が進むにつれ公示地価は上昇しています。

